

# 平成 30 年度 出雲医療看護専門学校

## 教育課程編成委員会議事録

日 時：平成 30 年 8 月 4 日(土) 14：45～16：15

場 所：出雲医療看護専門学校 1F 講堂

教育課程編成委員出席者：

- 秦美恵子 【看護】 (島根県看護協会 会長)
- 神田眞理子 【看護】 (島根大学医学部附属病院 副病院長、看護部長)、
- 福田勇司 【臨床工学技士】(島根臨床工学技士会 会長)、
- 糸賀修也 【臨床工学技士】(島根大学医学部附属病院 ME センター 副センター長) 、
- 福田淳 【理学療法士】 (ディサービスサイン マネージャー)、
- 廣江正幸 【言語聴覚士】 (山陰言語聴覚士協会 理事)、
- 藤江美穂 【言語聴覚士】 (出雲市立総合医療センターST リハビリ技術科主任)
- 橋本学校長  今岡副学校長  松井教務部長  片寄教育顧問
- 小田原学科長  高田学科長  新井学科長  門脇学科長
- 岡田副学科長  坂田副学科長  加藤副学科長  野津専任教員
- 笠原次長  阿守課長

欠席者：太田真英【理学療法士】(島根県理学療法士会会長)

進 行：松井 書 記：阿守(笠原)

議題	内 容	発議者
1. 開会		松井
2. 学校長挨拶		橋本
3. 委員会について	教育課程編成委員会の趣旨と目的について	笠原
4. 自己紹介		
5. 各学科 現状報告	看護→理学→臨工→言語の順 養成目的、教育内容、学生指導状況、実習状況 就職状況、国家試験、学科としての課題 等	松井 小田原 高田 新井 門脇
6. 意見交換	現状報告を聞いて各委員からの意見および質問  ・入試の合格率について(学科により差があるのか)  ・合格基準があり年度により差がある  ・入学後からの職能団体と学校との連携が必要となる。 特に学力からの側面だけではなくコミュニケーションと いう能力も必要となることから互いの協力が必要である。  ・学生の質の変化もありコミュニケーション力は重要であり 必要と思われるので学校側としても必要と感じる。	松井  福田(臨工)  笠原  福田(臨工)  笠原

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力を身に付けるために学校としてどのような取り組みをしているのか。</li> </ul>	廣江(言語)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床工学技士学科としては、基本的な挨拶から指導をしている。また、日ごろからの学校生活の中でも対人関係に対する指導も行なっている。</li> </ul>	新井(臨工)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学科では、実習での患者の情報共有をする意味でもコミュニケーションは大切にしている。学生の能力も様々であるので、学生一人ひとりに応じて指導をしている。社会的マナーができていない学生もいる。それが普段の学校生活の場でも現れるので、その場での指導をしている。その都度できていないところは適宜指導を行なっている。</li> </ul>	小田原(看護)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価項目よりチェックが入り個々への指導につなげている。授業としてもコミュニケーションについては取り入れている。</li> </ul>	岡田(看護)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習現場において、問題点・改善点等があれば意見を欲しい。</li> </ul>	松井
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力が低いという学生が多い。学生自らが訴えてくるケースがある。環境が変われば難しいところはある。しかし、基本的な挨拶とか社会的なマナーについては、しっかりと身に付けて実習に望んでもらいたい。患者や実習指導者とのコミュニケーションについては、個別性があるので個々での対応が重要である。教員と実習指導者との情報共有が必要であると感じた。</li> </ul>	廣江(言語)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在実習をしている学生は、比較的挨拶などは指導が入っているのでできている。問題は洞察力で、相手の立場を考えてるかは、違った意味での指導が必要。大学の学生は、アルバイト等を通じてコミュニケーション力を身に付けている。しかし、全体的にはコミュニケーション能力は低下している。このことも大切ではあるが他に読解力やルールを守ることがしっかりできることが重要である。</li> </ul>	神田(看護)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力的な面より、人と人との関係作りが大切である。コミュニケーションなどは経験を繰り返すことにより身に付くことがある。</li> </ul>	福田(理学)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習は、社会経験の中で挨拶など社会人としての基礎を学ぶ機会として捉えている。自分たちで考えて行動できる環境づくりや、自己が見られている意識を与える。そのためには実習指導者が実習生を観察する目を持つことが大切であると考え。</li> </ul>	糸賀(臨工)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生に対して実習状況により実習生の対応や態度を変える必要がある。文章力や自分を伝える力が不足している。自分に対して興味を持つことについての自己分析もしなければならぬ。他学科との交流を行いチームワークを学ぶ習慣が必要。</li> </ul>	藤江(言語)

7. 閉会挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療における職種間連携が重要であり、地域包括ケアの推進の現状認識を行い、地域での働き方を知ることが必要である。 地元意識を大切にしてもらいたい。</li> </ul>	秦(看護)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側より要望があれば聞かせていただきたい。</li> </ul>	福田(臨工)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の人たちと共に学ぶ環境づくりがあればよい</li> </ul>	小田原(看護)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設より講師として来ていただいている。教えることだけでなく学校のことを知っていただき学生との接点をもつていただきたい。</li> </ul>	高田(理学)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に対する受入体制の整備と在宅への取り組みを今後進めていただきたい。</li> </ul>	新井(臨工)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と業界連携を深めるための地域に対しての活動を行ないたい。</li> </ul>	門脇(言語)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回はさまざまなお意見をいただきありがとうございました。 今回のご意見に対して、すぐに改善が必要であるものと、時間を掛けて改善するものを分けて今後学校として取り組んでいきたい。また共に学んでいたいと思います。</li> </ul> <p>今後は、学科ごとに事前ご意見等を集約し第2回の委員会を行ないます。</p>	松井